

・雨でも休まず、197回、198回、・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

・定例活動1：小原本陣の森：9月 2日：第一土曜日、参加費400円

森林整備・担い手育成。

・定例活動2：若柳嵐山の森：9月17日：第三日曜日、参加費400円

里山交流・多様な森林活動。

・初参加者：9時15分までに、JR相模湖駅前、集合

・服装：汚れても良い格好、着替え、濡らない足元。

・持参：軍手、なるべく皮製、万一のケガに備えて、保険証、弁当・食器(箸・箸)、飲料水、そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとり」、怪我は自己責任。

国の環境政策：日本から世界へ

右の図は国（環境省）が国民・世界に発信している主張である。

環境破壊は、蒸気機関の発明、化石燃料の利用、人力を「国富論」で労働力・国力と看做した産業革命から始まっている。その産業革命が富国強兵策と兵器開発競争、新たな貧富の差を生み出した。産業革命全てが悪いと言うのではないが環境破壊の根源であることは間違いない。

表題の主張は、戦後の急激な経済復興と共にわが国が数回の石油危機や公害経験をバネに進化させた環境技術・省エネ技術で「日本発：環境革命」を起こそうと提案している。

「健やかで、環境と経済を両立させながら豊かな美しい国づくり」と言う主張を日本人として誇らしく思う。この主張は「森をつくる事業（環境）、森をいかす事業（経済）を一致させつつ豊かな美しい森づくり」に励む当会の活動と完全に一致する。この行動を共にしてくれる森林仲間を誇らしく思う。



活動報告1：小原本陣の森（担い手育成・技術向上の森）：8月 5日（第一土曜日）

報告 山本 晶子

「進めど進めど暗闇」のボサ刈り報告が、前回は「見上げれば空」になり、そして、今回は、空から注ぐ光の地面が増えた。参加29人。

空と地〔上下〕が繋がれ、視線を横（左右）に移してみると、藪の中に「何かが動いているな」、そんな感覚から「人がいるな」に変わり「富沢さんがいるな」とハッキリ人物が分かるようになってきたんですねー。

「光が差し込む面積が増える」と日陰が少なくなります。熱射を浴びながらの作業は、この季節、少し、しんどいけれど、でも、「見上げれば空！」・・・ですから気分は良好。

簡単に言えば、「作業が進んだ」の一言でしょうが、見たまんまの感じを記載して見ましたので想像して頂けたら嬉しく思います。

「ほんとに進んだの??？」と確認しに来て頂けたらもっと、嬉しいんです。

今日のお昼の汁の具材は、きのこ三昧。椎茸・舞茸・エノキ茸。シメジに豆腐。暑い目の熱い味噌汁もナカナカ。お代わり続出、完食。そして五色塾からの差し入れは、摘みたてキュウリとプチトマト。自然耕農法の味が濃くって、美味しかった。

ボサ刈りもゾロゾロ終了予定。これからは、枝打ち作業などが始まる。まだまだ暑いけど、作業の変化によって、季節の移り変わりを感じるな〜。

初参加の印象

投稿 藤川 あゆこ

初心者をお迎えしていただきありがとうございます。以下、初参加の感想です。

- 1)、皆さん、元気が良い。
- 2)、各個人マイペースに活動している。
- 3)、アットホームな雰囲気でした。

個人的には、チェーンソーの扱い方を習ってみたいと思いました。

また、活動の参加者が森林管理に積極性を持ち、誇りをもって活動している様子は認証効果の一つだと感じました。これは私が比較研究した内容を実証するものでした。その内容は3つの持続性（環境性・経済性・社会性）について社会面の効果が顕著に見られると言うことでした。



珍しいお客様 土壌学の碩学：大森博士
あの炭焼き権威：杉道銀治さん

活動報告2：若柳嵐山の森（里山交流の森）：8月20日

台風の逃れた酷暑35度の真夏日、62人参加。何もしなくても汗は滴る。



守屋崎さんの救護方法：暇かいご即得あり

- 1、中野区から「COCO 環境クラブ」を受け入れての「緑のダム体験学校：開校」
- 2、「神奈川県：植樹祭」準備のための県森林担当者との打ち合わせ・・・内容報告・別紙。

怪我の応急対策と危険防止意識向上のため、写真の小型ポシェット型救急袋をなるべく、目立つように作り各班に渡した。効果あってか、何もなし。

暑さに堪えかねたお昼に持っていたのは、「氷の冷やし汁」と「餅やか・朱書き文字：氷、あります」の茶碗蒸し。その仕掛け人は、晶子とハーヤ暫下。

このような仕掛けを何気なく考え出してくれる森仲間発想の柔軟さには驚かされる。

午後は、バテバテ、早めて終りにしたが、森を立ち去りがたい森仲間が、その辺りをウロウロしていた。

んで、冷たいお飲み物も出る「ムササビ亭：終りの会」と称する運営会議（危険管理・救急対策）に初参加者も多数参加・・・その内容報告・別紙。

・ 今月の「終りの会」では、以下に3点を話し合った。

* MLで詳細が報告されているので、要点のみ記述します。

1、危険管理・救急体制

イ、事故は「自己責任」だが、会として以下の対策を取る。

- ①、班別にポシェット型救急袋を班長又は代理が携帯する。
- ②、班毎に携帯電話で緊急連絡の取れる体制を敷く。
- ③、本部に石村又は代理が常駐し、事故発生時には必要な手配をする。
- ④、健康保険証は必携：コピーでは駄目。

ロ、救急・救護講習会実施

・、この森で講習会を開く・・・石村が手配を試みる。

2、初参加者対策

イ、初参加者は必ず、「緑のダム体験学校」に入校する。入校費1000円。

2回目以降は、通常参加となる。参加費400円。

* 入会手続きを勧誘するのが望ましい・・・受付係り

ロ、団体参加：双方で打ち合わせて決めるが、第三日曜日が望ましい。

3. 服装

イ、長袖・長ズボン・平袋・滑らない足元必須。夏、黒系統は不可。

ロ、朝礼時にイの服装チェック・・・

- * 事務局で調達して・白シャツを準備するか有償貸し出し。
- * 協力してもらえない参加者には花畑班か、お引取り願う。

* これらは、入江仲間が作ってくれた指導書に書き加え、受付時に指示して渡す〔提案〕。

植樹祭について、以下を確認した。

* 本庁・県北事務所森林課からの金沢・小笹管理職のお二人が見えました。

目的：水辺の再生・地主さんのご意向として環境林、用材林づくり、

植栽日：10月29日、

樹種：相模湖町の木・桂、津久井町の木・紅葉、相模原の木・ケヤキ

当会の希望として杉、イタヤカエデ、また、可能であれば嵐山内の苗木調達

疑問：何故、この時期に、この場所に植樹が必要か。

また、他の場所から県指定の限られた樹種持込の必要性を感じない。

要望：ケヤキ、カツラ、杉の混交林にするのは納得できる

中低木層としての紅葉類は、この森にあるカエデ類、広葉樹にしたい。

参加者には、県及び日本の森林の実情を訴えたい。

参加者：大坪・丸茂・清水・林・石村

感想：主な発言者は林仲間。突っ込みが鋭くきつくだが、誠実に真剣に、それが県職お二人の信頼を得たようだ。昼食も一緒に午後は、「緑のダム体験学校」にも楽しく参加してくださった。

湘南たより

投稿 岩沢由美

湘南は海だけじゃないよ、森もあるよと「湘南平・八俣山・高麗山」を3回、踏査して今日、7月22日、初めての森林活動を始めた。東海大の杉山先生と教え子のグリーンコミュニケーションの学生、緑のダム北相模の人たちのご指導で先ず、放置杉林の片付け。ここを仮に「緑のダム湘南の森」と名付け、「緑のダム北相模」の妹分です。何でも、「緑のダム北鎌倉」と言うお姉さんもあるとか。近々、お訪ねしますので宜しくお願ひします。



ここ「緑のダム湘南の森」は、都市部・広葉樹原生林・三韓時代から続く高麗山の歴史とロマン溢れる山を自覚し、偶然とは言い難い必然で、霧の漂う尾根道での出会いは、通りすがりの森林監視員の岩澤さんが私の親戚筋に当たる人。この方が、落雷で消失した高麗山山頂の上宮再建奉賛会の方で、神様の意図をますます感じたのです。

地元の人々と県・平塚市行政の方々も参加して水・空気を守る森林づくりをします。私の心の中にはここが、緊急時の森のシェルターとて沢山の人々の「ノアに箱船」のイメージもあります。・・・そのイメージの話は、来月に続く。

外部のいろんな動き

- 1、津久井四町が相模原市と合併すれば相模原市の森林率が7.2%にもなる。

相模原市には市民団体と市行政で構成する「相模原市環境審議会」と言うのがある。市内唯一の森林NPOだからと、多分そんな事で、随分と固辞したのだが当会に委員とお誘いが回ってきた。石村個人としてそんな器量がある訳でもなし、会として引き受けることを条件としたので、開会のときはご案内する。参加して欲しい。



相模原市には「環境基本計画」と言うのがあるが、合併前、相模原市には森林がなかった。報告書には、森林に関する項目が欠けている。そこで県北県政総合センターに旧津久井郡の森林状況資料を送っていただいで目を通して。また、相模原市で環境NPOで活発に活動している「NPO法人自遊クラブ」の山本さんが森林研究会を組織化して相模原市に提言書を出せるよう準備している。市行政から言われて動くのではなく、市民自ら動き市行政が支援すると言う形の方が良い結果を生むと思うので協力したい。

- 2、9月、神奈川県が主催県でテーマが「林業普及指導員シンポジウム：多様な森林整備」が開催される。県北地域県政総合センターの森林課から、このシンポジウムで当会を事例に発表したいと連絡を受けた。然しそれに相応しい活動内容になっているだろうか。
- 3、「国土緑化推進機構」が「NPO 創造的な森林づくり事業」をテーマに全国の森林活動をする団体に募集を掛け、当会は「都市部消費地に繋ぐ上流桂川、下流相模川流域の認証の森づくり」を掲げて応募した。第二次選考は、事業内容について何度もの話し合いになった。同機構の当会に対する評価は、「緑のダム北相模」の事業は独創的・創造的だが会の名前が先行しているきらいがある、活動の運営基盤が脆弱に感ずる。狙いは、全国各地域

で活動する「森林NPOのモデル作り」であり、そうなるために、そのあたりの固めを固めたい」であった。

こんなことになるとは思わずの10年だが、外部からは評価を受けている。本当のところどうだろう。評価に値する活動内容になっているとは思えない。月2回の活動日にしか会えないが、作業の終りには「ムササビ亭」が発展して最近では、冷たいものも出る「終りの会」と言う便利な話し合いの場：運営会が出来たが、帰路を急がねばならぬ仲間もあって十分な時間が取れない。如何したらよいだろう。

「若柳嵐山の森のFM(森林管理)・・創造的・市民自然保養林づくり」

より一層、創造的な、理想の森づくりに踏みたい。
いずれ、あれが「認証の森だ」と言われるように。



昨年、8月19日(第三日曜日)に本審査を受けた。丁度、1年が経過する。認証取得は目的ではなかったが目標ではあった。取得後の目標は何か。

この森に取り組んで5年、未着手部分は少し残ってはいるが、緊急を要する間伐と藪刈りを済ませ、この森がどのような植生で、どのような生物が住んでいるかの凡そが分かるようになった。

そこで先月、「創造的：市民自然保養林づくり」と称してエコ・ハーヤ班(清水・速水さん)に第一年度計画として道標や案内板製作を含む、観察道整備に取り組んで貰っている。狙いは、森がもっと良く見えるようにして、認証の森とはどういうものなのかをもっと皆んなで考えられるようにしたいと思ったからだ。この森林のイメージだが.....

- 1、市民による自主管理である、
- 2、道標など造作物は最低限に抑える。

- 3、森と人・生物の調和・共生を目指す豊かな森林である。
- 4、生産林では除草剤を使っているが、化学物質は使わない。

このようなことはみんなで合意して始めるべきとの意見もあろうが、先ず最初の提案としてどのような森林を目指すか、皆んなで議論して欲しい。実際のところ、理想の「FSCの認証の森」とは、無限なく深い意味があると思う。ママハウス図書館に「FSCガイドライン」を置いているので目を通して欲しい。また、沢山の人が森に関心を持ってもらうよう、取得のキッカケ、経緯、認証の内容など出版をして、公開の計画を進めている。

活動アンケート第7回

FSCは、問題があれば解決することを求めている。そこで当会活動のどこに問題があるかアンケートを行った。208件のアンケートに対して38項目、58件の回答が得られた。昨年11月から今年6月までの全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任)について解答してきた。今回は森林管理の内、作業道について質問に答える。回答に対する疑問・意見・反論、忌憚のない異論を提供されたい。

先月は、作業道に関する当会の基本的な考え方を説明しました。これについて幾つかの質問が寄せられています。それを紹介します。

(森づくり作業：作業道)

質問1：急峻な嵐山に合った作業道の実実：伐り出した間伐材の引きだしが困難、作業道は必須。嵐山のような急峻な山のモデルとなる様な道づくりを併せて道具等を、現場への持ち込みやすい作業道は必要。(正会員)

質問2、作業道の敷設は、作業をはじめる前にやっておかねばならないのではないかと(活動会員)。

回答：、嵐山山頂に近い部分は急峻と言えるところもありますがここはむしろ、穏やかな里山林と言えます。通常、作業道はクワヤダーとかプロセッサーなど大型重機の入る2m幅以上の道を言いますが、ここは市民活動NPOのフィールドですから最初から、その必要があるのでしょうか。尤も、林道から100mばかり先の突き当たりヒノキ林までと、その先からY字型に林道跡があります。寺院跡をぐるりと回る観察道を「エコ・ハーヤ班」で草刈をして貰ったら、十分に良い道になりました。

ここの森は、年間成長量21立米程度の森林ですから、丸太にして僅か30本ばかりの伐り出しになります。だから、お金になる大径木の森林づくりをしているのです。纏まった材出しの必要があるときはケーブルで、間に合うのではないかと感じます。森林の中腹と入り口にケーブルの跡が残っています。

